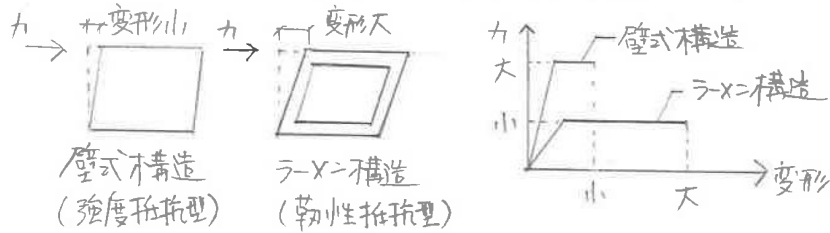


平成28年 No.23 各種構造

1. 壁式構造 → 強度抵抗型の構造であり、高い変形性能は期待できない
2. 鉄筋コンクリート構造における鉄筋のA種継手 → 降伏ヒンジが形成される桁端域の全筋に使用する場合、靱性の低下を考慮する必要がある
3. 壁式鉄筋コンクリート構造と壁式プレキャスト鉄筋コンクリート構造 → 一つの建物の同じ階に混用可能
4. ポストテンション方式のプレストレストコンクリート構造 → 鉄筋コンクリート部材の一部を中空化し、PC鋼材を挿入して張力を与え、残りの空間にグラウトを注入して一体化させる構造

◎ 壁式構造 → 地震その他の水平力に対して、耐力壁を主体として抵抗する構造形式 (告示1026号)

地上5階以下、軒高20m以下、各階の階高3.5m以下



◎ 壁式鉄筋コンクリート構造と壁式プレキャスト鉄筋コンクリート構造

→ 現場で組み立てを行うためには、あらかじめ工場などで製造されたコンクリート製品

→ 壁式鉄筋コンクリート構造の一部に混用可能

◎ 鉄筋コンクリート構造における鉄筋のA種継手 告示1463号
機械式継手、圧着継手の性能分類

SA級: 強度、剛性、靱性に関してほぼ母材並みの継手

A級: 強度、剛性はほぼ母材並み、その他は母材より劣る継手

B級: 強度はほぼ母材並み、その他は母材より劣る継手

(C級: 強度、剛性に関して母材より劣る継手)

→ 降伏ヒンジが形成される桁端域の鉄筋に用いる事ができる
↓ 全箇所を用いる場合

部材種別 FA, FB → FC, FD とする必要がある

靱性 高い → 低い

◎ ポストテンション方式のプレストレストコンクリート構造 → コンクリート硬化後にPC鋼材を引張る

